

チーム移管 歴史的1勝

4月25日は、群馬のソフトボール界にとって記念すべき一日となった。日本リーグ1部「ルネサスエレクトロニクス高崎」からチームを引き継いだ「ビックカメラ高崎」が、SGホールディングスグループを大差で下し、リーグ戦初勝利を飾ったのだ。

当日は高崎から車で4時間以上かけて、試合会場の静岡県磐田市に駆けつけた。4月19日の開幕戦は0-1で競り負け、この日も、ホームランで先制される嫌な展開だったが、大工谷真波選手の3点本塁打が飛び出すなど打線が大爆発。終わってみれば14-1の快勝で、チームのシニアアドバイザーを務める立場としても、ほっと胸をなで下ろしたところだ。

ただの「1勝」ではない。多くの関係者の思いがこめられた歴史的な勝利だからこそ、なんだか背筋がぴんと伸

ソフトボール元日本代表監督、NPO法人「ソフトボール・ドリーム」理事長



宇津木 妙子 * 毎週日曜日掲載

応援団長を務める安田権寧さんと握手。スタンドの声援が選手たちの一番の力になる

びるような心境だった。

前身の日立高崎が創部したのが1981年。私は86年に監督に就任し、日本一を目指して選手たちを鍛え上げた。チームが名前を変えることはあっても、地域のみなさんの熱心な応援を励みにしながら、昨年まで日本リーグ優勝9回、宇津木麗華（現ビックカメラ高崎監督）や上野由岐子（同選手兼コーチ）ら多くの五輪選手も輩出することが

できた。

そんな伝統あるチームが岐路に立ったのが昨年の秋。経営再建中のルネサスエレクトロニクスが、ソフトボール部の新たな受け入れ先を探すことになったのだ。場合によっては、県外に拠点を移すことにもなりかねない事態。窮地を救うべく奔走してくれたのが富岡賢治・高崎市長だった。

富岡市長は、かつて高崎で創業したビックカメラに受け入れを打診。同社とチームの橋渡し役となり、引き続き群馬のチームとして活動できる道筋をつけてくださった。「市民の誇りとなっているソフトボール部がなくなってしまう」という思いがあったそう

で、本当にありがたい気持ちでいっぱいになった。チームに並々ならぬ愛着を持つ人たちは他にもたくさんいる。チームの移管に際して

は、日立、ルネサス時代からの関係者が集まって「応援部慰労会」「ソフト部新スタート激励会」などが相次いで行われた。

チームを支えてくれた会社、応援団の関係者はもちろん、選手バスの運転手さん、寮の管理人さん、食事面をサポートしてくれた調理師さんたち……。みな笑顔で、時に涙を浮かべながら、当時の思い出に花を咲かせつつ、私の顔を見ては「これからもビックカメラを応援するよ」と激励してくれた。万感の思いと、温かいエールの両方が胸にあふれ、涙をこらえるのに必死だった。

地域に愛され、支えられて迎えた35年目のシーズン。今年も、16、17日の前橋大会（前橋市民球場）を手始めに、高崎、伊勢崎でも熱戦が繰り広げられる。始動したばかりのビックカメラ高崎ソフトボール部と選手たちに、今後とも温かい声援と拍手を、何とぞよろしくお願いいたします。

